

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	私たちの思い『普段の生活に近い状態で暮らして頂けるようお手伝い致します』『生きている実感の持てる暮らしを支援致します』『入居者の体力・知力に合わせたお手伝いを致します』『地域社会と協調した施設として運営して行きます』4つの運営理念を毎朝朝礼時全職員で唱和している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの運営理念を事務室に掲げ、全職員で唱和している、ミーティング・カンファレンスにて具体的に実践項目を掲げ、日々介護に生かしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	月刊『グループホームはなみずき通信』を発行し、御家族に毎月郵送し近況を報告し、町内区長さん・民生委員さんにも見て頂き状況を話しています。運営推進会議・家族会議で具体的に説明し理解して頂いている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事に利用者・職員が出向き、参加させて頂いたり、運営推進会議には、区長・民生委員が毎回参加して下さっている。しかし、近隣の方が日常的にホームに立ち寄れる関係は、築けていない。		今後は、近隣の方も気軽に訪問できるような雰囲気作りに努めていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の中学校行事『職場体験実習』の受け入れを行い、利用者と触れ合っていたり、バスハイクに同行していただいている。また、ホームスタッフが中学校に出向き、介護に関する講師を行ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方と、当ホームの利用者との交流を持ってないか、話し合いは行っているものの、実現には至っていない。		もっと地域の方々に気軽に来て頂けるようPRを続けて行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を理解し、評価された内容をスタッフ全体に伝達しているものの、具体的に活かしているとはいえない。		自己評価により日々の活動の見直し、改善点再確認した、評価が形式的なものでなく運営・介護の指針と受け止め、より具体的に実践活動に移していきたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運え営推進会議にて状況報告・外部報告を行い意見を聞いている、特に地域行事・活動についての参加・交流について市、区長さんの指導を拜している、また、当ホームの行事等について家族、区の皆さんの参加交流を推進している。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回発行する、月刊『はなみずき通信』を介護課に持参し、当ホームの状況報告をし、意見及び指導をおおいでいる、相談ごとは包括支援センターの担当者に気軽に相談出来ている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市より頂いた参考資料を元に、朝礼・ミーティング時に全職員で学習している		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議、家族会議等で身体拘束のない、鍵をかけないよう工夫する事項を話し合い、又、認知症の方の特徴について家族に説明し、理解を促している、現在拘束の事例はない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、利用者の権利・義務を契約書に明示している。入居時に入居者及び御家族に説明をし同意を得ているが、説明が足りないと思えた御家族や入居者には特に注意して入居後にも説明を行い現在は十分なご理解を得ている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の介護業務の中で意見をお聞きし、申し送りノート、介護日誌等にて全職員に知らせ情報を共有化し、ユニットミーティング、カンファレンス等にて具体的対応策を作成し、利用者に対応している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月刊『グループホームはなみずき通信』により、ホームの状況報告誌を「入居者状況報告書」「小口現金・預り金出納台帳・領収書添付」等を同封郵送している、面会等の来訪時、介護職員及びケアマネージャーが詳しい近況報告をしている。御家族様も安心していただいている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会議・運営推進会議等にて御意見をお聞きし、会議出席(市役所・町内会役員・御家族代表者)の皆さんと検討する、結果を議事録にまとめ、全職員に回覧及びミーティング等にて通知・指導をしている。また、ご家族が少しでも意見・苦情が述べやすいように、家族会議は、ご家族主導で進めていただいている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のユニット会議にて意見を収集し、改善策を立て現場にて実践に移す様にしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の容態の異変時介護職員に即対応できるようマニュアルを作成している。 行事等人手が多く必要時及び個人都合等シフトに対応する為ミーティング等にて説明を行い、前月の25日までに調整したシフトを作成し、職員の理解を得ている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>最近、職員の離職率が低下してきている。利用者から離職に関して聞かれたら答えるようにしているが、基本的には利用者には伝えない様になっている。新人職員については、入居者が慣れるまではベテラン職員が行動を共にし、利用者へのダメージを防ぐようにしている。ご家族に対しても、職員の入社・退社をご報告している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>『元気・やる気』を重んじ仕事に向かう本人の姿勢を重んじている。 勤務体制・シフトについては職員の希望を取り入れながら勤務シフト作成を行っている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>入居者に対しての人権尊重などに関して、ミーティングにて管理者が伝えている、皆で話し合うと共に、職員一人一人に指導を行っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎日の朝礼時にマニュアルを読み上げ、施設内研修としている。 月1回のミーティング・カンファレンスを通じ、認知症ケアや感染症等について資料を提供している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ケアマネージャーを中心に『FUKUOKA医療・介護ネットワーク』の勉強会に定期的な参加をしている。 その他、情報収集は、市役所・包括支援センター担当者・運営推進会議等でサービス向上へ向けて行っている。</p>		<p>今後、管理者やケアマネージャーだけでなく、一般職員の交流の機会を作って行きたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ミーティングのみではなく、個別ミーティングを行い、個人的な相談に応じている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務状況、各行事の企画実施、レクリエーション活動実施を通して、職員の実績を把握し、個別ミーティング等で各自の目標・意向を収集し、意向に沿えるように努力している。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人・御家族との面接を行い情報収集し、相談に乗っている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホームに見学に来て頂き、御家族からの悩み等を時間を掛け、面談室にてお聞きする。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>介護上必要な対応等のポイントを探り、当ホームでの生活上必要なケアについて介護スタッフ対応のミーティングを行う。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>最初は、本人の性格や言動を観察し、レクリエーションや散歩・スタッフが話し相手をしながらコミュニケーションをとり、他の入居者の輪の中に入るよう徐々に場の雰囲気に馴染んで貰う。 また、御家族の面会の回数を増やして頂き、本人の孤独・淋しさを取り除く対応をしている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で、料理作り・手芸・折り紙・歌など、昔の趣味の延長上で職員と共に作業をし、時には職員が教えて貰う事もあり、共に共感し合える場を作っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	バスハイク等、外出時には御家族にも声掛けを行い、ご協力を得る事もある。		今後も、バスハイク時のみでなく、様々な行事の企画・運営にも参加して頂き、御家族も一緒に入居者の楽しみ作りを支えられるようにしていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は、入居者と御家族の関係を受け入れ、関係が保てるように努力している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が日常的に使用されていた家具や物品、または、昔の写真等を一緒に見ながら昔の話をスタッフと行っている。御家族や知人へ電話・手紙を出す支援も行っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	行事やレクリエーションなど、入居者の皆さんで出来る事を行っている。(誕生会のケーキ作りなど)また、日常でもかかわり合いを持てるよう声掛け・見守りを行っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後に、継続的な関わりを必要とされるご家族は、今までおられなかったが、必要とされるご家族がおられる場合は、必要な支援をしていきたい。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、御家族等から生活歴や趣味を伺うと共に、今まで利用されていたサービスからの情報収集や日々のかかわりの中から思いや意向の把握に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族・本人や、以前利用されていたサービス機関から情報を収集し把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	総合的に把握して記録し、申し送り等を通して情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	かかりつけ病院などの機関からの情報や、本人・御家族等から得た思いや意向を元に、職員でカンファレンスを行い、本人の意向に沿った介護計画作成に取り組んでいる。		今後、ケアプランカンファレンスに直接御家族・本人も参加し、意向、思いが言える様な体制に行きたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに見直しを行っている、また、3か月未満でも状況が変化した時はカンファレンスを行い、さらに御家族と話し合い臨機応変に対応している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、夜勤記録、バイタルチェック表、申し送りノートに職員が日々チェックし、情報の共有をし、ユニットミーティング・ケアカンファレンスにて提案している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時の見舞、洗濯物回収、かかりつけ医への通院支援等、本人・御家族の要望に応じた支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、地域の皆様からご意見・御指導を頂いている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外部からの訪問マッサージの取り入れ、また、提携病院の医師より日常生活での注意点などのアドバイスを受けている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、必要な事項をご指導頂いている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族からの要望に応じてかかりつけ医の受信を支援している。協力医療機関について説明をし、了解を得て変更する場合もあるが、どちらも職員が同行して情報を共有している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院やかかりつけ医に定期的に受診し、医師からの指導、または指示・アドバイスを受けている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期的に協力病院やかかりつけ医に受診し、医師・ナースからの指導、または相談・アドバイスを受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した際は、できるだけ早く退院できるよう、ご家族と連絡を取り合ったり、医師にも相談している。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りについて、入居開始時に口頭で説明を行っているが、ターミナルケア等の話し合いはまだ行われていない。</p>		<p>利用者の状態に変化があるごとに、ご家族と終末期のありかたについて話し合いを行っていききたい。また、スタッフ間でも話し合い、方針を共有していききたい。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化した利用者に対し、残されている身体機能をできるだけ使うことができるよう工夫したり、話しかけや音楽など、少しでもよい刺激のある生活ができるよう取り組んでいる。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ホームから病院に入院する際は、入院する前まで、ご家族や医師と十分話し合い、入院時には病院のスタッフに利用者についての情報を提供している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄の誘導や入浴など、あらゆる生活の場面において、プライドを傷つけないような行動を心がけている。</p>		<p>今後も職員間で確認し合いながら向上していききたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>更衣などのときは、洋服を選んでもらうなど、生活の様々な場面で自己決定ができるよう、支援している。</p>		
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>できる限り一人ひとりのペースに合わせてケアしているが、職員側の決まりや業務等を優先しているときもある。</p>		<p>職員間で話し合いを持ち、また、利用者から要望を引き出して、思い思いの一日が過せるよう努めて生きたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>特に外出時などは、その人の好みのおしゃれが楽しめるように支援している。</p>		
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者それぞれの能力を把握して、調理の下ごしらえ・野菜の皮むき・炒める・味見・食器拭きなどをしていただいている。</p>		
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>御本人の生活暦や、その時の要望を踏まえて、嗜好品等を楽しめるようにしている。</p>		
58	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>オムツや紙パンツの利用者はいるが、定期的なトイレ誘導や、オムツ交換で、快適な生活を送っていただけるよう心がけている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、他の業務との兼ね合いや、スタッフの数が多時間帯などを考慮し、火・木・土の13:00～16:00の間に行っている。その時間帯の中で、利用者のタイミングに合わせて勤めている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりのその時の状況で、臥床を促したり、ソファーに誘導したりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の特徴・能力を把握して、生活の様々な場面で役割が持てるよう努力している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金は、ほぼ職員が管理しているが、中にはお金の心配をされる利用者もいるので、その方については小額所持していただいている。		職員の理解を深めていきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	御本人の希望があるとき、また、職員の声掛けでホーム周辺を散歩したり、ドライブに行ったりしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入浴がない日の午後に、よくドライブに出かけている。また、時々外食にも行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要求があった場合は、職員を通して行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会にこられた際は、ゆっくり過ごすことができるよう、ご家族の椅子を用意したり、お茶をお出ししている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成し、朝の申し送りの際に、繰り返し勉強している。やむを得ず、拘束にあたる物品を使用しているが、ご家族と十分に話し合い、説明している。		ホーム内で勉強会を開いたり、研修等で理解を深め、今より更に拘束のないケアに取り組んでいきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が正しく理解しているまでには至っていない。		ホーム内で勉強会を開いたり、研修等で理解を深めていきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	普段の見守りは、さりげなく見守るよう心がけている。特に排泄時等の見守りは、できるだけ御本人に気づかれないよう配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりの能力に合わせて、事故防止や清潔の保持のため、必要な物だけ管理している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬は、介助する時に声を出して、職員2人で確認している。利用者の行動・能力を常に把握し、転倒・行方不明等の事故防止に努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時対応マニュアルを作成し、いつでも確認できるようにしている。朝の申し送りの際に、繰り返し勉強している。		全ての職員がマニュアルの内容を理解できるよう、定期的に勉強会を行っていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署を招いての火災訓練を実施している。また、ミーティングのときに非常口の開け方などの確認も行っている。運営推進会議にて、地域の方に働きかけを行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会に来られた際やケアプラン説明時に、近況報告も兼ねて説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調を観察し、変化があるときは他の職員に申し送るようにしている。必要があれば、提携病院に連絡・相談している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用については、職員全員は把握しきれていないが、誤薬がないように服薬支援をしたり、日々症状の変化を観察している。		薬の説明書等を利用し、副作用の把握をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝の体操・散歩をして、できるだけ身体を動かすように努力している。また、水分補給の時間を設けている。外出後は必ず水分補給をして頂く。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけ・介助を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼・嚥下の能力を把握し、とろみ・刻みなど個別に対応している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルを作成し、いつでも確認できる場所に置いている。その内容も期間を決めて実行している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁・まな板・布巾・スポンジなど、毎日消毒している。また、食材はできるだけ余らないように購入し、冷蔵庫の中も毎日整理・点検している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には職員の紹介を貼ったり、柔かい雰囲気になるよう草花も植えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に季節を感じていただけるような飾り付けを心がけている。また、日中はできるだけ自然の光を取り入れるよう心がけている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士、思い思いの所で会話等をしているが、共用の場で独りになれるところはない。		ホールの中に、他利用者の視線が気にならず、独りになれる空間を作っていきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者によっては、ご自分が以前から使っているものを持ち込んでいる。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の身体・精神の安定の為に、日々努力している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が靴を履きやすいように、玄関にベンチを設置している。浴槽は出入りの安全を考え、階段式になっており、手すりも設置している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には、各個人の名前を付けたり、浴室などにも「ゆ」ののれんをつけ、わかりやすいように工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには、花壇や畑があり、スタッフと花を觀賞したり、収穫などしている。また、気候が良い日は、芝生の上で昼食を摂ったりもしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)